

横浜市大佛次郎記念館 平成 29 年度指定管理業務（外部評価）

	金委員	富岡委員	中島委員	ハッ橋委員	米本委員
Ⅰ 文化事業	<p>【評価できる点】</p> <p>3 回実施されたテーマ展示は、どの回も充実したものとなっており、観覧者数にも大きく反映されていたと思います。</p> <p>スタッフの展示案内・解説の素晴らしさもリピーター確保につながったのでしょ</p> <p>う。</p> <p>また、地域とのネットワークや、近隣の小学校とのビブリオバトル等の連携が昨年以上に構築出来ている点も評価できます。</p> <p>大佛次郎の随筆から抜粋したミニ本の作成・販売の試みも大変良かったです。</p> <p>前年に引き続き、今回も好評を博したネコ写真展は、前年の経験を活かして効率よく開催できた点も良かったです。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>「大佛次郎のヨコハマ・スピリット」は横浜ゆかりの企業の協力を得るなどして大佛文学を通して「ヨコハマ」の歴史と魅力を呈示した展示であった。また愛猫家の大佛にちなんだネコの写真展も人気を博したようで、目標を上回る来館者を得られたことは高く評価できる。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>大佛次郎の魅力を多角的にとらえ、様々な誘客へとつなげている点を評価します。</p> <p>特に、「横浜フランス月間」に合わせたとりくみや、他施設との連携、「大佛次郎のヨコハマ・スピリット展」「大佛次郎と 501 匹の猫」展等は、これまでになかった利用者層を取り込む企画対応として、今後の活動に対する広がりを持つことができたと思います。</p> <p>さらに、「おさらぎ選書」への寄稿に科研費を活用できたこと、ミニ本の作成や岩間市民プラザでの朗読会などもアイデアを形にする工夫として評価できるものであり、これからもこうした発想や活動を大切にしながら継続していってもらいたいと考えます。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>多言語への対応として英語表記を実施したこと、また twitter、you tube 等を活用し入館者等との接点を増加させていることなど、これまでの活動を基本としつつさらに充実させている点が評価できる。</p> <p>好評であった「大佛次郎×ねこ写真展 2018」を継続し、また応募や展示の方法について新たな試みをおこなっている点が評価できる。</p> <p>オープンデーの実施に際して、町内会経由でのちらし配布を行うなど、近隣住民とのかかわりを積極的に図っている点が評価できる。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>「大佛次郎と 501 匹の猫」の入場者が 1 万人を超え、目標値の 2 倍近くに達するなど、テーマ展示開始以来最高の入場者数を記録したのははじめ、29 年度の観覧者数が目標値を大きく上回ったことは高く評価できる。</p> <p>ホームページのサイトのアクセス数が前年度の 2 倍と飛躍的に増えたことも評価できる。</p> <p>夏休み子どもアドベンチャーの参加者数増加も評価できる。</p> <p>「大佛次郎×ねこ写真展 2018」は前回も人気だったが、29 年度はさらに入館者を増やしたことは高く評価できる。人気定着を期待したい。</p> <p>ドレス撮影が目標の 4 倍近い実施回数だったことは評価できる。</p>
	<p>【改善が必要と考えられる点】</p>	<p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>展示や講演会の情報発信、広報に一層の努力が求められる。これは横浜市（行政）が大佛次郎という文学者の存在の巨さをどのように認識しているかという課題とも関わっていると思われる。大佛賞との関係など。</p>	<p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>当館と大佛次郎の魅力の伝え方として親しみやすさ気軽さにフォーカスした点は評価できますが、同時に作品内容の理解や興味へと直接つながる工夫に期待したいと思います。例えば「私の好きな大佛次郎の一文」展示のようなものなのかも知れませんが、大佛次郎の愛した世界観が作品としてどう描かれているかなどが、高尚でなくて構わないので伝わる企画を具体化し続けてほしいと思います。</p> <p>このほか、細かいことですが、I P M への対処、S N S の積極的な活用（Facebook、Instagram、twitter の使い分け）なども継続していってください。</p>	<p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>和室の利用について、利用回数を増やすといった量的な目標も重要であるが、記念館内にある施設としてどのように位置づけるかという検討を行ってもよいのではないかと考えられる。</p> <p>近隣商店街との連携について、どのような形態が望ましいのか、またその実現可能性など、具体的イメージやパターンの検討が必要と考えられる。</p>	<p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>「大佛次郎の戦後ニッポンー未来を信じるチカラ」の入館者数が未達。港の見える丘公園の訪問客が減少する冬季の対策が必要。</p> <p>インスタグラムなど写真の人気が高まっているので、ドレス撮影など写真撮影を生かした活用はまだ伸ばせる可能性がある。</p>

横浜市大佛次郎記念館 平成 29 年度指定管理業務（外部評価）

	金委員	富岡委員	中島委員	ハッ橋委員	米本委員
Ⅱ 施設運営	<p>【評価できる点】</p> <p>海外からの観光客等の来館を鑑み、1階ロビー展示において日本語に加えて英語のキャプションを追加し、多言語対応の実施を行った点と、QRコードを用いた音声ガイドは大変すばらしい取り組みであると思います。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>引き続き、和室の利用率を上げるためのキャンペーン等について検討を要すると思われます。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>会議室の利用率が目標を上回ったことは評価できる。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>和室の利用のアイデアを考えたい。民間の業者との連携は可能か？</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>近隣住民へのダイレクトメールなど、地域とともに施設活性化及び価値向上につなげていく方向が見え始めたことがよかったです。また、ドレス撮影の増加やQRコードによる音声ガイドなど利用者にとってプラスになることに取り組めた点も評価します。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>和室利用やドレス撮影などは、施設空間の良さを理解してもらうことが大切ですから、WEBでフォトスポットの紹介や和室利用の例がわかる画像をアップすべきだと考えます。</p> <p>地域との協働は、連携先との WIN-WIN の関係づくりや大佛次郎記念館だからできることを改めて考えて進めてほしいと思います。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>年間入館者数が大幅に増加した点は、大いに評価できる。</p> <p>ロッカー利用料金の変更や suica の導入など、入館者の利便性を高める改善が行われていると評価できる。</p> <p>市内企業への発注目標を達成しており、横浜市の施設として地域に結びついた活動を実現していると評価できる。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>全国文学館協議会会議研修会への参加が未実施となったことは残念である。業務スケジュールのよりよい調整が図られることを期待したい。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>年間入館者数が目標を大きく上回ったことは高く評価できる。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>和室の利用率向上をはかりたい。東京五輪も近く、訪日外国人観光客を取り込むなど、和のしつらえを生かした取り組みができるのでは。</p>
Ⅲ 維持管理	<p>【評価できる点】</p> <p>いつ訪れても美観を保つように心がけられているのが良いです。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>2階へ上がる階段付近の雨漏りを視察で訪れた際、一度みたことがありましたが、会館の修繕費は経過年数から考え、どうしても必要となる費用となりますので、小破修繕の取り組みについて、計画的に今後も横浜市と連携してもらいたいです。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>日常業務として支障のない対応を進められたと考えます。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>防火・防災の観点から、利用者とスタッフ、資料の安全確保のために消防計画に則った日常的なチェックを実施するようお願いします。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>施設の維持管理については、適切に行われていると思われる。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>ウッドデッキの活用について、魅力的なアイデアが生まれることを期待したい。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>特になし。</p>
Ⅳ 収支	<p>【評価できる点】</p> <p>ショップ収入・自主事業収入が予算額をはるかに上回る数字となっており、指定管理料のみに依存しない収入確保につながっている点が良いです。</p> <p>ショップで販売されている商品も手頃な価格帯であり、来館者が購入したくなるようなものが取り揃えられていて良いです。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>入館者の増加、ショップの売上などによって収入が増えたことは、展示の工夫、地域との連携その他の様々な試みの成果である。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>ショップの売上増が予算比 120 万円上回ったことを評価します。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>入館者の増加、さらにショップ売上の増加によって、これまでの大幅な収入増となった点は高く評価できる。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>ショップ売り上げの大幅増は高く評価できる。</p>

横浜市大佛次郎記念館 平成 29 年度指定管理業務（外部評価）

	金委員	富岡委員	中島委員	ハッ橋委員	米本委員
Ⅳ 収 支	【改善が必要と考えられる点】	【改善が必要と考えられる点】	【改善が必要と考えられる点】 コスト削減は予算との比較で考えるべき ですから、事業の計画内容に基づいて予算計 画を立てるよう努めてください。	【改善が必要と考えられる点】 とくになし。	【改善が必要と考えられる点】 今後も来館者が増加することを想定して、 省エネも進めてほしい。機器買い換え時は省 エネ製品の導入を。
そ の 他	H P やチラシ等に「大佛次郎記念館 開館 40 年」の共通ロゴが使われており、 統一感が出ていて良いと思います。	記念館として来館者をく待つ>のではなく、 ＜外＞に出ることが（ミニ・ビブリオバトルそ の他）、「新しい文学館」の実現を可能にさせつ つあると思われる。	指定管理者制度の「原則公募」の考え方に 則り、「非公募指定」で選定された団体によ る運営ですが、設置者・指定管理者・評価委 員それぞれがチェックを重ねており、「非公 募」であるか否かに関係なく活動内容の良し 悪しを評価すべきだとあらためて感じます。 （非公募は行政の思惑通りということで誤 解を生みやすいですが、そういうことではな くしっかりと活動している点を評価してい ます。）	収支報告書（平成 29 年度業務報告及び収支 決算書）の、収入の部における数値表記（△ の表記法）がわかりにくい。	

	金委員	富岡委員	中島委員	ハッ橋委員	米本委員
総 括	指定管理制度導入 2 年目でしたが、前年同 様、展示の内容は毎回深いものであり、充実 していました。 大佛次郎という作家の普及や子供たちの 読書活動など幅広い文芸の推進につながっ たと思われます。 今後も広く市民のために、そして市民に愛 される記念館を是非、目指していただきたい です。	記念館としてできることを最大限になし て、来館者の大幅な増加、ショップの売上な どにつながっており、この努力は高く評価し たい。 ただしこの可能性を高める業務が現在の 人員や組織体制で今後とも保持し、さらなる 展開をなしえるのか、人材の確保など根本的 な運営が問われてくる。	概ね良好な活動が進められた一年だった と思います。特に 24,492 人という集客を達 成したことを評価します。 集客増にともない、フリー動線の当館は安 全確保の面について注意を払い、日常的な防 火・防災管理を強化するようお願いします。	これまでに比べ大幅な入館者増となった点 は、高く評価される。記念館ならではのテー マ展示のみならず、時節をとらえた企画を計 画・実施する組織運営が図られている成果で あると考えられる。今後も、本年度にみられ た大佛次郎の活動を身近に感じられるような 展示、さらにオリジナリティのあふれるショ ップ運営を期待したい。	

平成29年度 横浜市大佛次郎記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 作品、旧蔵資料及び関連資料の収集、保存及び展示公開	資料収集 大佛次郎関連資料の寄贈を随時受付し、情報収集に努め、適切な収集を行う。	■新収資料を市民の財産として積極的に情報発信し公開。 おさらぎ選書「資料収集」欄への掲載	実施	実施	チェック - ・28年度受贈資料及び購入資料は、「おさらぎ選書」第25集「資料収集」欄に掲載。 ・購入資料6点のうち3点は常設展で「特集展示コーナー」を特設し、展示・公開。	【成果】 ・大佛次郎研究を目的とし、資料について収集・保存・公開を適切に行いました。 ・6月には「おさらぎ選書」第25集の発行、自著について新たに757件のデータをホームページ上に公開し、大佛次郎関連資料の発信に努めました。 ・29年度より、より適切な資料の保管・管理のためI P M (総合的有害生物管理) の考え方に則り、主体的な管理に取り組みました。	【評価できる点】 ・資料の収集、保存及び公開を適切に実施し、目標通りに業務が遂行されました。貴重な資料の保存及び継承に努め、またその公開の実施により横浜の文芸文化の発展に寄与したことを評価します。 ・ホームページに公開する収蔵資料のデータ数が目標を上回ったことを評価します。昨年度と比較しても200件以上増加しており、昨年度に構築した整理の枠組みに則り、目標に向けて着実に業務が実行されたことが伺えます。
	資料保存 (1)所蔵資料を後世に継承するため、資料の劣化を防ぎ、良好な状態を保つ。(毎日2回の点検・記録・調整の実施、特別書庫内使用の出入庫表への記録、年1回の燻蒸、月1回の資料整理、必要な資料の修復)	■貴重な資料の管理や保護に注力し、自筆原稿等特に貴重な資料の管理に細心の注意を払う ■温湿度管理の徹底、中性紙箱に収める等の方法で資料の保全を行う	実施	実施	- ・多様な種類と形態をもつ資料の特性に留意しつつ、展示期間中の展示替えやレプリカの利用による状態の維持。 ・病虫害対策の一環として、IPM(総合的有害生物管理)の観点から、12月に職員による2階書庫内の大規模清掃を実施。 ・温湿度管理や保存方法は達成指標通りに実施。	・28年度に課題としていた多言語対応について、1階ロビー展示において、日本語に加え英語のキャプションを追加しました。同時に展示地図も英語併記のものを新設しました。多言語対応の実施により、日本語を母国語としない来館者にも、大佛次郎を理解していただける機会を提供できました。	・レファレンスサービス件数は目標を上回っており、幅広い層に貴重な資料を提供しました。レファレンスサービスを充実させたと共に、閲覧室での閲覧環境を整え、広く資料や書籍を提供したことを評価します。
	展示公開 (1)常設展(収蔵品展) 年1回 全体的な展示替え実施 年3回の企画展に合わせた内容の見直し 中央ケースでの新収蔵資料の展示	□「大佛次郎の生涯と作品」にスポットを当てた収蔵品展を展示室で実施 目標:定期的な展示替え実施	実施	実施	- ・大佛次郎の生涯をたどる構成に加え、横浜市の事業「横浜フランス月間2017」に合わせ、1961年の大佛のフランス滞在にまつわる新収資料を展示。 ・「猫」、「横浜」、「天皇の世紀」等、テーマ展にあわせ6月、7月、2月、3月にコーナーごとの展示替えを実施したほか、11月には資料保存を目的とした展示替えを実施。	・28年度に課題としていた多言語対応について、1階ロビー展示において、日本語に加え英語のキャプションを追加しました。同時に展示地図も英語併記のものを新設しました。多言語対応の実施により、日本語を母国語としない来館者にも、大佛次郎を理解していただける機会を提供できました。	・レファレンスサービス件数は目標を上回っており、幅広い層に貴重な資料を提供しました。レファレンスサービスを充実させたと共に、閲覧室での閲覧環境を整え、広く資料や書籍を提供したことを評価します。
	(2)愛蔵品展示コーナー(年1回 展示替え)	□大佛次郎の交友関係に焦点をあて、関係する旧蔵資料等を愛蔵品展として記念室前展示コーナーで展示 目標:年1回の展示替えの実施	年1回	年1回	B ・大佛夫妻が愛用した茶碗、菓子鉢、茶杓等の茶道具7点を展示し、大佛次郎と彫刻家の朝倉文夫や陶芸家、小山富士夫といった人々との交友関係を紹介。	・収蔵品展に関しては、テーマ展示に沿った展示を行ったほか「横浜市フランス月間2017」、猫、横浜、西郷どんに関連した収蔵品を展示し、タイムリーに関心と呼ぶ切り口での展示を行いました。	
	(3)1階ロビー展示(年1回 展示替え) 年表パネル・写真パネルの展示	■目標:1階ロビー展示	実施	実施	- ・海外からの観光客、近隣地域のインターナショナルスクール関係者等の来館を鑑み、1階ロビー展示のキャプションに日本語に加えて英語表記を行い、多言語対応を実施。	【課題】 ・貴重な資料の管理・保護については、I P M (総合的有害生物管理) の考え方や実践にあたり、より理解を深める必要があり、次年度に研修を計画しています。	【改善が必要と考えられる点】 ・収蔵資料を継続して公開すると共に、資料のデータベースそのものの周知を検討されることを期待します。また、展示公開の内容についても、ホームページやSNS等を活用し、わかりやすい情報発信や周知を強化することを期待します。
	資料公開(展示を除く) (1)閲覧室での図書の閲覧	■閲覧室での図書の閲覧の実施	実施	実施	- ・閲覧室での図書閲覧の実施。 ・6月発行「おさらぎ選書」第25集での目録の掲載。 ・データカテゴリー(自著:昭和21年から33年分)を追加。 ・大佛次郎の昭和21年から33年刊行の自著のデータ整理を進め、新規に757件のデータを3月にホームページ上に公表。 ・年間レファレンス回数:62回	・資料の修理及び修復については予算制約のある中で考慮し実施するため、中長期的視野に立って計画を行います。	
	(2)「おさらぎ選書」に目録を掲載。	■「おさらぎ選書」への目録の掲載	実施	実施	- ・レファレンスサービスでは、海外からの来館者を含め、学界など幅広い層からの質問に答え、情報の発信に努めた。	・多言語対応については引き続きテーマ展示においても取り組んでいく課題と認識しています。	
	(3)ホームページに収蔵資料目録を掲載、検索アイテムの拡大	■データカテゴリーを追加 □ホームページ上で新規に公表するデータ数	実施	実施	- B ・ホームページ上で新規に公表するデータ数		
	(4)レファレンスサービスの充実	□レファレンスサービス件数	年40回以上	62回	A		

平成29年度 横浜市大佛次郎記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について：目標に対し＋10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し－10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	
2 作品及び大佛次郎に関する調査研究及び情報の集積	大佛次郎の作品等に関する調査研究成果の展示、出版、講座・講演等による社会への還元 (1)テーマ展示の実施	□テーマ展示 実施回数 □観覧者数	3回 15,980人	3回 22,771人	B A	・テーマ展示の実施:3回 ・テーマ展示Ⅰ～Ⅲ観覧者数:22,771人/ 昨年度比2,208名増 ・1日あたりの入場者平均75.9名 ・調査研究の他機関との連携:河村目呂ニライブラリ、日本招猫倶楽部との共同調査(大佛次郎所蔵の猫型火鉢) ・調査研究の一連の発表:那珂川町馬頭広重美術館での「作家・大佛次郎とねこ」講演会、中央図書館「大佛次郎のヨコハマ・スピリット」講演会
	(2)調査研究の他機関との連携した実施	計画書に記載なし	(計画書に記載なし)	3回	-	
	(3)調査研究の一連の発表機会との連動	計画書に記載なし	(計画書に記載なし)	実施(1回)	-	
	企画展(テーマ展示)の開催(年3回) (関連講演・講座等の開催、財団運営施設等の主催講座への出張含む) (1)テーマ展示1 「大佛次郎のヨコハマ・スピリット」	□入館者数 ■大佛次郎生誕120年記念講演会の実施 ■中区制90周年、ホテルニューグランド90周年との連携 ■フランス月間とリンク	5,400人 実施 実施 実施	8,015人 実施 実施 実施	A - - -	・展示Ⅰ「大佛次郎のヨコハマ・スピリット」3/16-7/9 ・大佛次郎が愛した「ヨコハマ」の魅力を切り口に、1930年代のモダンなライフスタイルや戦時色が濃くなった戦中期の作品に投影された反骨精神など、大佛次郎の生き方や作品の特質を約90点の資料を通じ紹介。 ・90周年を迎えたホテルニューグランドをはじめ、横浜ゆかりの企業に協力いただき、当時の雰囲気の一部を借用資料によって再現。 ・中区との連携として、町内会を通じたチラシ配布等の広報協力が実現。 ・「横浜フランス月間2017」関連イベント:6/18(日)「大佛次郎生誕120年記念講演会」Ⅰをフランス文学者・鹿島茂氏を講師に招き開催。合わせて収蔵品展示ではフランス関係の新収蔵資料を展示。
	(2)テーマ展示2 「大佛次郎と501匹の猫」	□入館者数	5,400人	10,617人	A	・展示Ⅱ「大佛次郎と501匹の猫」7/13-11/12 ・「愛猫家」大佛次郎にスポットをあてた展示。「私の家に住んだ猫の数は五百匹に余る。」など、大佛次郎が残した文章を基軸に、大佛家の猫の写真、収集した猫に関する品々のコレクション、童話『スイッチョねこ』の挿絵原画、猫の浮世絵、木村莊八をはじめとする猫をめぐる人間関係など、猫にまつわる収蔵品を網羅的に紹介。 ・前年度発行の書籍『大佛次郎と猫』(小学館)を公式カタログとして活用し販売。
		■猫を通じ幅広い層への認知度アップをはかる	実施	実施	-	・那珂川町馬頭広重美術館での展覧会「大佛次郎と501匹の猫」同時開催をはじめ、県外で実施される猫コレクションへの協力や画像提供の機会が増加し、記念館の知名度アップに貢献した。
		■大佛次郎生誕120周年講演会の実施	実施	実施	-	・大佛次郎生誕120年記念講演会Ⅱを10/9(月・祝)開催。中区制90周年連携事業として、神奈川近代文学館と共催。またこの日を入館無料デーとし、来館者は1,793名を記録。
		■大佛次郎120歳誕生日の実施	実施	実施	-	・展示Ⅲ「大佛次郎の戦後ニッポン 未来を信じるチカラ」11/16-3/11 ・本邦初公開の昭和21年から23年大佛次郎が書いた7冊の日記をはじめ、主筆をつとめた雑誌「学生」(「おさらぎ選書」第25集の内容と連動)など、100点余りの資料を展示し、戦後の復興にかける大佛次郎の思いを紹介。 ・関連イベントがなかったことや厳冬という気象条件も重なり、目標観覧者数は未達。
		■中区制90周年との連携	実施	実施	-	・YouTubeとQRコードを利用した音声ガイドを試行。 ・大佛次郎の随筆から抜粋したミニ本を作成し販売開始。 ・「おさらぎ選書」第25集では、大佛次郎が主筆をつとめた雑誌「学生」の書誌情報の索引を掲載、展示では「大佛次郎が『学生』での若者に向けたメッセージ」を軸のひとつに、大佛の活動を紹介。
		■小学館発行の「大佛次郎と猫」の活用	実施	実施	-	・「大佛次郎生誕120年」と題し、論文「『若い人達』にー雑誌『学生』と大佛次郎の戦後」、「幻の『地誌』横浜の世紀』を追って」、論文「大佛次郎と音楽」を掲載し、大佛次郎の多彩な魅力に迫った。 ・大佛次郎が主筆した雑誌「学生」の書誌情報の索引を作成し掲載。
	(3)テーマ展示3 「大佛次郎の戦後日本」(仮)	□入館者数 ■「おさらぎ選書」第25集の資料紹介と連動する	5,180人	4,139人	C	
	7「おさらぎ選書」の発行	■「おさらぎ選書」第25集で、「大佛次郎生誕120年」と題し、論文「大佛次郎主筆『学生』を読む(仮)」(「大佛次郎と神奈川新聞社」、及び『学生』の書誌情報等を掲載する発行予定年月:平成29年6月～9月中	実施	実施	-	・「大佛次郎生誕120年」と題し、論文「『若い人達』にー雑誌『学生』と大佛次郎の戦後」、「幻の『地誌』横浜の世紀』を追って」、論文「大佛次郎と音楽」を掲載し、大佛次郎の多彩な魅力に迫った。 ・大佛次郎が主筆した雑誌「学生」の書誌情報の索引を作成し掲載。
	8 所蔵資料を用いた書籍・論文等の活用実績 (書籍の閲覧室での公開、受付での販売の実施)	(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	実施	-	・「有鄰」553号「海辺の創造力」に「大佛次郎 もう一つの顔」を寄稿し、環境保護運動に貢献した大佛次郎の横顔を紹介し、館内で無料配布。(11月) ・「鎌倉通信」より6編を選びミニ本として作成、販売。(1月)
	情報の集積と発信 (1)一般紙誌の掲載につながる話題の提供と積極的な働きかけ。	■新収蔵、初公開等の情報を発信	実施	実施	-	・初公開情報は、テーマ展示Ⅲ「大佛次郎の戦後ニッポン 未来を信じるチカラ」で記者発表とwebにより発信。 ・テーマ展示Ⅲ「大佛次郎の戦後ニッポン 未来を信じるチカラ」では大佛次郎の名文をTwitterで47回発信。 ・Twitterは平均して月5回以上の更新。(年間163回、月平均13.6回)
	(2)ウェブ紹介による来館の動機づけ	■SNSを使った積極的な発信	実施	実施	-	・Facabookは月5回以上の更新。(年間77回、月平均6.4回) ・ブログは月5回以上の更新。(年間77回、月平均6.4回) ・メールマガジンを4回発行し、年度末の登録者件数は70件。 ・上記の取組の結果、29年度のホームページのサイトアクセス件数は、前年度の2倍以上(139万件)に飛躍的に延びた。
	9 (3)ブログやSNSを用いたタイムリーな発信	□SNSアカウントの開設・運用 ツイッターでの発信	月5回	4月のみ未達成	B	
		□SNSアカウントの開設・運用 フェイスブックでの発信	月5回	月5回以上	B	
		□ブログ更新回数	月5回	月5回以上	B	

自己評価	行政評価
【成果】 ・大佛次郎生誕120年の節目の年にあたり、3回のテーマ展示に加え、新たなイベントや他機関との連携による催しを開催し、記念の年を盛り上げました。 ・テーマ展示Ⅰ「大佛次郎のヨコハマ・スピリット」では、「ヨコハマ」をキーワードに、大佛次郎のモダンなライフスタイルを紹介しました。中区制90周年との連携により広報が充実し、ホテルニューグランドをはじめ横浜ゆかりの企業の協力をいただき、市民が身近に感じられる店舗や場所が多く紹介され、アンケートでは回答者のうち88%が展示について「満足」「やや満足」という結果となり、満足度の高さが伺えました。 ・テーマ展示Ⅱ「大佛次郎と501匹の猫」では、猫という愛らしい動物がテーマであること、また会期に夏休み期間を含んだことで、年齢を問わず多くの方にご来場いただき、テーマ展示開始以来最高の入場者数10,617人を記録しました。また他県の公立美術館における同展の同時開催が実現したことで、高い発信性を打ち出せたことも特筆すべき展示となりました。 ・テーマ展示Ⅲ「大佛次郎の戦後ニッポン 未来を信じるチカラ」では、初公開資料となる、大佛次郎が戦後に書いた日記や、若者たちに向けて強いメッセージを届けた雑誌「学生」に注目した、大佛次郎の人となりを深く読み解く展示となりました。また、11月から大佛次郎の名文をtwitterで展開するほか、wi-fiを活用してyou tubeから音声ガイドを提供するなど新たな試みを行いました。 ・「おさらぎ選書」第25集の発行しました。千葉大学教授大原祐治氏寄稿の論文は、科研費助成(JSPS 科研費JP16H03386)を受けて執筆されました。「おさらぎ選書」の学術誌としての性格を補強するものであり、今後に向けての成果となりました。 ・ブログ・twitterを含めた即時性のある情報発信を、目標を上回る頻度で行い、またメールマガジンをスタートさせメールニュースの発行を行いました。ホームページのサイトアクセス数が前年度の2倍と飛躍的に増加しました。 【課題】 ・テーマ展示Ⅲ「大佛次郎の戦後ニッポン 未来を信じるチカラ」における入館者数が目標に届きませんでした。港の見える丘公園の訪問客が減少する冬季にかけて、季節に左右されない来館者層をターゲットにした、集客の仕組み作りの検討が必要です。 ・QRコードを用いた音声ガイドについては、利用者の使いやすさ向上に努めるとともに、音声ガイドサービスの認知度アップを目指します。 ・記念講演会Ⅱは参加者数が目標に届きませんでした。新聞への掲載機会創出等広報の強化を図ります。	【評価できる点】 ・テーマ展示の観覧者数が目標を6,700人以上上回ったことを高く評価します。前年度と比較しても3,000人以上増加しており、観覧者増加に向けた工夫や取組が着実に実行された成果の一つだと考えます。 ・テーマ展示Ⅰ及びⅡの観覧者数が目標を上回ったことを評価します。テーマ展示Ⅰ「大佛次郎のヨコハマ・スピリット」では、地元の企業の協力も得て、大佛が暮らした当時の横浜の生活をいきいきと再現しました。また、テーマ展示Ⅱ「大佛次郎と501匹の猫」では、大佛の私物の猫の置物や浮世絵、大佛作の猫が主人公の絵本等を展示し、猫に焦点を当てた目にも楽しい展示を行いました。展示内容や展示方法に趣向を凝らしたことで、多くの人を惹きつける魅力ある展示となったといえます。 ・テーマ展示Ⅱ「大佛次郎と501匹の猫」では、他都市の美術館と連携した企画展の同時開催に協力・実現したこと、大佛次郎記念館を周知する機会を創出し、広く発信したことを評価します。 ・継続したブログの更新や、昨年度開設したSNSのアカウントを活用し、積極的な情報の発信を行ったことを評価します。

平成29年度 横浜市大佛次郎記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について：目標に対し＋10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し－10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価					
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価				
3 各種文化的行事の実施	各種文化的行事による大佛次郎及び作品の普及啓発 (1)横浜文学散歩	□開催数	年1回	未実施	-	【成果】 ・記念年ならではの、当代一流の文学者による記念講演会や岩間市民プラザでの朗読公演等の大佛次郎記念館以外で開催する事業を多く展開し、大佛次郎及び記念館の周知に寄与しました。 ・大佛次郎文学賞記念講演会については4月及び3月に開催され、どちらも満席となりました。講演会を通じて大佛次郎の精神の魅力を広く伝える機会となりました。4月の講演会は中区制90周年関連事業として開催しました。 ・映画上映に代え、岩間市民プラザとの共催で、大佛作品の魅力を伝えることを目的とした高橋長英氏による大佛作品の朗読公演が開催されました。 ・大佛次郎生誕120周年記念講演会を6月と10月の2回開催しました。6月の講演会は「横浜フランス月間2017」関連事業・中区制90周年連携事業、10月の講演会は中区制90周年連携事業となりました。 ・子ども向け事業として、夏休み子どもアドベンチャー、小学生ミニ・ビブリオバトルを開催したほか、ミュージアムミッション2018に参加し、いずれも目標参加者数を上回りました。 ・29年度も継続して「大佛次郎×ねこ写真展2018」を開催し、公募によるねこ写真の展示を行いました。最終的に目標の3,000名を上回る3,597名の来館があり、新規来館者へのアプローチとして大きな効果がありました。 【課題】 ・横浜文学散歩については、講師都合により中止としました。次年度は当館職員の案内による展示テーマに連動した内容での開催を検討します。 ・次年度以降もねこ写真展を開催しますが、写真に応募者の一言を添えてもらう等、より魅力的な展示を検討します。	□参加者数	20人	未実施	-	【評価できる点】 ・岩間市民プラザと連携し朗読会を開催しました。提案時は映画上映としていましたが、大佛次郎作品の普及という目的のため、より効果的な手法を検討し、他館との連携によりそれを実現したことを評価します。 ・「夏休み子どもアドベンチャー」の参加者数が目標の2倍以上の人数になったことを高く評価します。今年度は申込み方法を改善したことで、参加者数の増加につなげました。目標達成のために事業の運用を変更し、試行した成果が出たことを評価します。 ・「大佛次郎×ねこ写真展2018」の入館者数が目標を500名以上上回ったことを評価します。入館者数は、昨年度と比較しても600名以上増加しており、大佛次郎記念館の企画として定着が図られつつあることが伺えます。また、昨年度の結果をふまえ、公募作品の応募数を見直したほか、展示スペースの拡大を図る等、事業内容の改善が行われたことを評価します。
		■中区制90周年連携事業	実施	未実施	-						
		(2)大佛次郎賞記念講演会 朝日新聞社との共同主催で、大佛次郎賞受賞記念講演会を開催	□開催数	年2回	年2回		B	・大佛次郎文学賞記念講演会については4月及び3月に開催され、どちらも満席となりました。講演会を通じて大佛次郎の精神の魅力を広く伝える機会となりました。4月の講演会は中区制90周年関連事業として開催しました。			
			□参加者数	各回240人	各回240人以上		B				
	(3)大佛次郎研究会公開發表会	■大佛次郎研究会に対し、会議室の利用、選書への論文掲載等を支援	実施	実施	-		・大佛次郎文学賞記念講演会については4月及び3月に開催され、どちらも満席となりました。講演会を通じて大佛次郎の精神の魅力を広く伝える機会となりました。4月の講演会は中区制90周年関連事業として開催しました。				
			■年2回開催される研究会公開發表会の共催、活動支援	実施	実施 (2回、147名)			-			
	(4)映画上映	□映画上映に替え、岩間市民プラザにて大佛次郎生誕120周年の記念連携公演として大佛次郎作品の朗読公演を実施	1回	1回	B		・「高橋長英 朗読と音の調べ 大佛次郎生誕120年記念」として岩間市民プラザで5/27(土)に2回公演開催。俳優高橋長英らが「時雨の蝶」「離合」を朗読。				
	(5)大佛次郎記念館120年記念「大佛次郎生誕120年記念講演会」の実施(2回)	□入場者目標	各回170人	2回目未達 (1回223名、2回目159名)	B		・大佛次郎生誕120年記念講演会Ⅰを「横浜フランス月間2017」関連イベント・中区制90周年連携事業として6/18(日)にフランス文学者の鹿島茂氏を講師に招き実施。併せて収蔵品展示としてフランス関係の新収蔵資料を展示。(再掲)				
		□実施回数	2回	2回	B		・大佛次郎生誕120年記念講演会Ⅱを10/9(月・祝)開催中区制90周年連携事業として、神奈川近代文学館と共催で実施。(再掲)				
		■神奈川近代文学館と共催実施	実施	実施	-						
		■中区制90周年連携事業	実施	実施	-						
	施設及び山手エリアの活性化 (1)和室公開(年2回)	□和室公開 春の桜、晩秋の紅葉の時期に和室を公開し、来館者に景色を楽しんでもらうと同時に、大佛の作った俳句等を展示することによる啓発 公開回数	2回	2回	B		・春3/24(金)~4/9(日)(15日間)、秋11/24(金)~12/10(日)(17日間) ・春季は春にちなんだ大佛次郎の俳句6点、秋季は秋にちなんだ俳句5点の書作品を展示。				
		□来場者数(春・秋)	各400人	各回400人以上	B		・書籍・グッズ販売とミニ展示を通して記念館のPRを実施。 ・展示替えはテーマ展示にあわせ年3回実施。				
		(2)大佛茶亭公開(年2回)	■会場で書籍・グッズ販売、施設紹介を実施	実施	実施 (2回、899名)		-	・書籍・グッズ販売とミニ展示を通して記念館のPRを実施。 ・展示替えはテーマ展示にあわせ年3回実施。			
	■テーマ展示毎の茶亭の展示コーナーの展示替え		年3回	年3回	B						
	その他の事業(子ども対象事業の実施) (1)小学生ミニ・ビブリオバトル	□中区との連携事業として開催 開催回数	年1回	年1回	B	・第5回ミニ・ビブリオバトルを11/25(土)に開催。中区を中心に、市内小学校に在学する小学生8名の参加があり、見学者も含めると36名の参加となった。単年度限定で中区と共催し、中区提供のチャンピオンカップが中図書館長より授与された。					
	(2)夏休み子どもアドベンチャー	□子どもたち・保護者の入館を促進 参加者数	40人 (保護者含む)	参加52人／応募96人 (保護者含む)	A	・夏休み子どもアドベンチャーを8/17(木)、18(金)に開催し、「スイッチョねこ」を2名の朗読者がかけ合いで読み聞かせ、その感想画を描いた。2日間で感想画参加者が40名、付添等を含めると参加者は付き添い含め計52名。完成した感想画を夏休み期間中記念館サロンに展示し、家族や関係者の再来館につなげた。					
	(3)親子での来館を促す企画の実施	□感想画展等、小中学生無料化に伴い、親子の来館を促す企画の実施 実施回数	年1回	年1回	B	・ミュージアム・ミッション2017に7/22(土)~8/31(木)の期間で参加し、記念館受付で参加を促す積極的な紹介が奏効し、期間中の参加者数は累計414名となった。 ・「大佛次郎×ねこ写真展2018」を2/22(火)~4/8(日)の期間で開催。来館者数:2,764人(2/22~3/31。会期全体の来館者数3,597人)					
			■県博物館協会主催ミュージアム・クイズラリー2017に参加、来館者増を図る。	実施	実施	-	・「大佛次郎×ねこ写真展2018」では昨年度同様、会議室で大佛次郎の文章と猫の写真のコラボレーションコーナーを設けたほか、大佛次郎の飼ったシャム猫の写真、公募写真の展示を実施。また新たに2階サロンで猫ポップを使用し、大佛次郎と猫たちの姿を再現。公募写真は今回応募点数を1名につき3枚までに絞り、応募最終点数は555点と昨年度より少ないものの、応募者数は昨年度より50名以上多い210名となった。和室は施設利用のない日にねこポップを出し、会場の一体感を演出。				
	(4)ミュージアム・クイズラリーへの参加による参加者増	□参加者数	300人	414人	A	・大佛次郎×ねこ写真展2018」では昨年度同様、会議室で大佛次郎の文章と猫の写真のコラボレーションコーナーを設けたほか、大佛次郎の飼ったシャム猫の写真、公募写真の展示を実施。また新たに2階サロンで猫ポップを使用し、大佛次郎と猫たちの姿を再現。公募写真は今回応募点数を1名につき3枚までに絞り、応募最終点数は555点と昨年度より少ないものの、応募者数は昨年度より50名以上多い210名となった。和室は施設利用のない日にねこポップを出し、会場の一体感を演出。					
			□大佛の愛した猫を切り口に、新規来館者層の開拓「大佛次郎×ねこ写真展2018」実施回数	年1回	年1回	B	・大佛次郎×ねこ写真展2018」では昨年度同様、会議室で大佛次郎の文章と猫の写真のコラボレーションコーナーを設けたほか、大佛次郎の飼ったシャム猫の写真、公募写真の展示を実施。また新たに2階サロンで猫ポップを使用し、大佛次郎と猫たちの姿を再現。公募写真は今回応募点数を1名につき3枚までに絞り、応募最終点数は555点と昨年度より少ないものの、応募者数は昨年度より50名以上多い210名となった。和室は施設利用のない日にねこポップを出し、会場の一体感を演出。				
	その他の事業(観光客や新規来館者を呼び込む企画) 「猫」企画の実施	□「大佛次郎×ねこ写真展2018」入館者数	3,000名	3,597名	A	・大佛次郎×ねこ写真展2018」では昨年度同様、会議室で大佛次郎の文章と猫の写真のコラボレーションコーナーを設けたほか、大佛次郎の飼ったシャム猫の写真、公募写真の展示を実施。また新たに2階サロンで猫ポップを使用し、大佛次郎と猫たちの姿を再現。公募写真は今回応募点数を1名につき3枚までに絞り、応募最終点数は555点と昨年度より少ないものの、応募者数は昨年度より50名以上多い210名となった。和室は施設利用のない日にねこポップを出し、会場の一体感を演出。					

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
4 施設の有効活用及び文化団体等への活動の場の提供	記念館の雰囲気や建物の魅力を生かした利用の誘致 (1) 学校茶道部等への和室利用促進	■キャンペーンによる誘致の実施 □キャンペーン利用件数	実施 年2回	実施 未達	- C	【成果】 ・9月2日のオープンデーでは、入館無料とし、来館者に対し、版画刷り体験や茶道体験等の様々な体験の提供ができました。また、英語によるギャラリートークにおいて地域の協力を得て内容の充実を図ることができました。中区との連携により町内会経由でのちらし配布が実現したことも成果となりました。来館者は1,110名。近隣住民に向けて施設の認知に繋がりました。 ・ドレス撮影会など記念館のロケーションを活かした特徴ある利用について、目標の5件を上回る19件の利用がありました。また撮影についての情報はツイッターでの紹介を行い、施設の魅力発信につなげました。 【課題】 ・和室の利用率を上げるためのキャンペーンについて、具体的に取り組むことができませんでした。30年度には新たに作成したパンフレットやSNS、ホームページ等を活用し、和室の周知を図ります。	【評価できる点】 ・大佛次郎生誕120周年を記念して「大佛次郎記念館のオープンデー」を実施し、1日で1,110名もの来館者数になったことを高く評価します。当日は無料開館日とし、周辺住民へのダイレクトメールによる積極的な広報活動等を行いました。また、教育機関や中区等と連携し、オープンデーを盛り上げるための企画を実現しました。周辺地域の集客をねらった取組を実行し、多くの来館者数を獲得しました。大佛次郎記念館を知る契機となる事業であったことを評価します。 ・ドレス撮影が目標の3倍以上の実施回数となったことを評価します。撮影体験の情報をSNSで発信することにより、建物の魅力を活かした施設の利用促進に取り組みました。
	(2) 近隣教育機関と連携し、オープンハウス実施	■「大佛次郎記念館のオープンデー」の実施による地域連携、バイリンガル化の促進 ■多文化共生の拠点としての可能性の探求 ■中区制90周年連携事業	実施 実施 実施	実施 実施 実施	- - -		
	会議室、和室の利用促進 建物の魅力を活かした撮影利用や、展示利用等を誘致します (1) ウェディング撮影	■ウェディング撮影を近隣のホテルや結婚式場と連携しての誘致	実施	実施	-		
	(2) ドレス撮影	□ドレス撮影会等、商業撮影の誘致	年5回以上	年19回	A	・ドレス撮影会や写真仲間での撮影会など、撮影は合計19回の実績。 ・撮影誘致は引き続き継続しつつ、新たな方法として、港の見える丘公園を訪れるウェディング撮影業者に向けたチラシ配布などのアピール活動の準備の実施。 ・特徴ある利用実績の例として、グループでの撮影会とバスルドレスでの撮影体験の情報をtwitterで紹介。 ・「ユースギャラリー」(2/10～15)、と「大佛次郎×ねこ写真展2018」(2/20～4/8)で会議室を継続利用し、多数の来場者があった。 ・30年6月からの貸出にむけ、茶道具やプロジェクターを中心とした附帯設備の品目を増やすための準備を整えた。 ・ミニ・ビブリオバトルの校内決勝戦会場として、サロンを提供し、当日は児童9名、先生ほか13名が参加。	【改善が必要と考えられる点】 ・学校茶道部への利用促進を実施し、調整を図りましたが未達となりました。今後も利用促進の手法を検討し誘致を促進すると共に、学校以外の利用の可能性についても検討することを望みます。 ・ドレス撮影は目標を上回りましたが、魅力を持った建物であるため、撮影利用に関して周知が広まれば、より多くの利用につながると考えられます。今後は、撮影のニーズの発掘が検討されることを期待します。
	(3) ファッション雑誌						
	(4) 学校等の利用促進 ボランティアへの会議室の減免提供、小学生ミニ・ビブリオバトル参加校への会場としてのサロン提供	(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	1回	-		
	(5) 研究者団体への場の提供 大佛次郎研究会、フランス経済史研究会の活動支援						
	(6) 市民文化団体への場の提供 天皇の世紀を読む会の活動支援						
	(7) その他	■撮影等、特徴ある利用実績を記録し、アピールに利用	実施	実施	-		
		■主催または共催で、会議室の継続利用につながる展示事業の開催。	実施	実施	-		
	リピート利用に向けた方策 (1) 和室、会議室での附帯設備導入等による利便性向上	■附帯設備の充実の検討	実施	実施	-		
	(2) 会議室での自主事業の実施(簡易的な展示)						
	(3) 会議室の利用者の意見を聞き設備面・サービス内容等を改善。	■改善を実施し、実績をホームページやSNSを通じ発信	実施	実施	-		
	(4) ホームページでの情報提供。	■ホームページに「和室・会議室空き状況」ページを開設	実施	実施	-		
	ティールーム「霧笛」との連携 (1) 相互割引の継続実施及び団体利用客への霧笛紹介。	■チケット半券ーレシートの提示による相互割引を継続。団体客や貸館利用者へティールームの利用の呼びかけ	実施	実施	-	・相互割引を謳う割引クーポンを継続。無料デーのイベントではティールーム霧笛よりケーキセットの協賛をいただき、記念館は来館者へティールーム霧笛を紹介し、相互に協力した取組を実施。 ・ティールーム霧笛から記念館活性化プロジェクトで開発された、フランスをイメージしたトリコロールカラーのかき氷「大佛フラッペ」を夏季の継続販売の協力を得た。 ・ボンバドウルから記念館活性化プロジェクトで開発された「ピコンリキュールのごほうびサバラン」の冬季の継続販売の協力を得た。	
	(2) 街コン実施に際しての霧笛利用に向けた調整						
	(3) 記念館活性化プロジェクトで開発されたメニューの継続販売。	■記念館活性化プロジェクトで開発されたメニューの販売	実施	実施	-		
	(4) 広報協力 当館広報物への情報掲載等の実施 企画との連携メニュー等の相互の活性化に向けた協議	■記念館ホームページでのティールーム霧笛の案内ページ ■オープンデー時の新メニュー開発	実施	実施	-		

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
5 市民協働 及び地域との ネットワーク 構築	17 近隣教育機関との連携	■チラシ配布、ポスター掲示等で日常的な協力関係を築く。小学生ミニ・ビブリオバトル等の子ども対象事業実施の際、挨拶まわりを行い、参加を呼びかけ。	実施	実施	-	・デモ・ビブリオバトルと称し、記念館職員が北方小学校の授業に出向き、3学年の児童に各1時間ずつ、ビブリオバトルのデモンストレーションを実施。 ・北方小学校のビブリオバトル校内決勝戦が記念館サロンを会場に開催。 ・チラシ配布協力：中区近隣小学校3校	【成果】 ・ミニ・ビブリオバトル開催にあたり、最も距離が近い北方小学校のほか、横浜国大附属小、横浜雙葉小、本町小の3校にちらし掲出の協力を得ることができたこともあり、初めて募集人数を超える人数でミニ・ビブリオバトルを実施できました。また、館職員が小学校でビブリオバトルを実践して対象学年の生徒に見せるデモ・ビブリオバトルを行うことにより、子どもたちに理解を深めてもらうことができました。
	近隣施設等との連携 (1) 横浜山手芸術祭への参加	□横浜山手西洋館ユースギャラリーの実施 内容：市立北方小学校児童作品を会議室に展示 期間：平成30年2月(10日間)	年1回	年1回	B	・横浜山手西洋館ユースギャラリー、会期：2/10～15(6日間)。紙工作、粘土、絵画など、小学生の作品を会議室で展示し、昨年度を上回る325人の観覧者となった。 ・山手西洋館ハロウィンウォーク、10/31、190名参加。今年で2度目の参加だったが、悪天候により参加者は190名にとどまった。	・ユースギャラリーやハロウィンウォークへの参加により、山手・丘公園エリアの施設との一体感が醸成できました。
	(2) 山手西洋館との連携	■横浜山手西洋館ハロウィンウォークへの参加 ■山手通信への情報掲載	実施	実施	-		
	(3) 県立神奈川近代文学館との連携	■大佛次郎生誕120年を記念した関連展示の近代文学館内での実施への働きかけ	実施	実施	-	・県立神奈川近代文学館との相互割引を継続実施し、双方の館を訪れていただけるよう来館者に案内した。 ・県立神奈川近代文学館と共催し、生誕120年記念講演会Ⅰ、Ⅱを実施。6/18(日)、10/9(月・祝)(再掲) ・近隣商店街からの協賛として、ホテルニューグランド、ボンパドウルの2社に加え、新たに元町霧笛楼より「ねこ写真展 人気投票」の賞品提供の協賛をいただいた。 ・横浜高速鉄道株とはポスター掲示協力。みなとみらい線のマップ配布は先方事由により未実施。 ・ボンパドウルから、今冬季も記念館活性化プロジェクトから生まれた「ピコンリキュールのごほうびサバラン」の継続販売の協力を得た(再掲)。 ・元町商店街との相互割引は先方事由により未実施。	
		□120年記念講演会の共催での開催 開催回数	2回	2回	B		
		■神奈川近代文学館との観覧者の相互割引の継続	実施	実施	-		
	近隣商店街等との連携	■近隣商店街等とのつながりを大切にし、関係性を深める。	実施	実施	-	【課題】 ・近隣商店街等、地域との連携については、引き続き継続・拡大を模索します。	【改善が必要と考えられる点】 ・元町商店街との連携であるレシート提示による入館料の割引の実施が未達となりました。今後は実現可能な連携方法について検討を進めることを期待します。
	(1) 元町商店街(元町SS会)との連携 ボンパドウルに、大佛次郎記念館活性化プロジェクトから生まれた商品の販売継続を働きかける。	■販売継続を働きかける。	実施	実施	-		
	(1) 元町商店街(元町SS会)との連携 ボンパドウルとポスターの相互掲示を継続	■ポスターの相互掲示の実施	実施	実施	-		
	(1) 元町商店街(元町SS会)との連携 レシート提示による団体割引の適用の検討と商店街との協議	(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	未実施	-		
	(2) 横浜高速鉄道(株)との連携 横浜高速鉄道とポスターの相互掲示を継続	■ポスターの相互掲示の実施	実施	実施	-		
	(2) 横浜高速鉄道(株)との連携 みなとみらい線のマップ配布等の実施	(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	未実施	-		
	(3) ホテニューグランドとの連携 大佛次郎ゆかりの「天狗の間」宿泊プランの継続を働きかける。	■宿泊プランの継続を働きかける。	実施	実施	-		
	20 研究者団体の文化活動への場の提供	■大佛次郎研究会及びフランス経済史研究会との施設及び資料利用に関する協定の見直しを検討	実施	実施	-	・大佛次郎研究会とは覚書を基とした協力関係を継続。 ・フランス経済史研究会とはコンタクトをとり協力関係を継続。	・市民協働の取組が未実施となりました。今後は相互に協議の上、実現可能かつ効果が得られる協働の方向性を検討実施に向けて着実に取り組むことを望みます。また、建築等多方面の団体との協働も検討することを期待します。
	21 財団施設及び他館との連携	■横浜美術館カフェ小倉山にて大佛次郎生誕120周年記念連携展示「大佛次郎のモダンライフ」を実施し、商品販売等の連携を目指す	実施	実施	-	・横浜美術館との共催：パネル展示「大佛次郎のモダン・ライフ」を開催。テーマ展示Ⅰ「大佛次郎のヨコハマ・スピリット」関連事業として写真パネル展示を3/25から6/25まで横浜美術館カフェにて実施。(来場者9,003名) ・大佛次郎生誕120年記念連携公演：「高橋長英 朗読と音の調べ 大佛次郎生誕120年記念」を岩間市民プラザで開催。(来場者232名)(再掲)	
□岩間市民プラザにて大佛次郎生誕120周年の記念連携公演として大佛次郎作品の朗読公演を実施		年1回	年1回	B			
市民協働 (1) NPO法人横浜シティガイド協会との連携	■ガイドに対するレクチャーを開催	実施	未実施	-	・ガイドに対するレクチャーは、先方事情で未実施。 ・ボランティア制度については、28年度に続きメーリングリストの拡充により、基礎づくりを図った。		
	■記念館へのツアーを促進。	実施	未実施	-			
22 (2) 記念館ボランティア組織編制 展示作業、イベント開催のお手伝い依頼スキーム作成 ボランティア登録にあたり、一般公募及びカルチャースタッフ経験者へ周知	■ボランティアメンバーの拡充をはかる。	実施	未実施 (検討を継続)	-			

平成29年度 横浜市大佛次郎記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について：目標に対し＋10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し－10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価
6 広報・プロモーション活動等の推進	広報よこはま、地域のタウン誌、新聞紙面等による広報活動を継続。またSNS等を活用したプロモーション活動を行う。 (1)記念館広報(紙媒体)年間スケジュールチラシの配布	□年間スケジュール(3か月スケジュール)の発行 発行回数	年4回	年4回	B	【成果】 ・紙媒体、WEBを含めて適切な広報が行えました。ホームページのトップページでタイムリーに催し物の告知を行ったほか、SNSを含むWEBを活用した広報を本格稼働させました。その結果ホームページアクセス数が前年度の2倍となりました。 ・来館者サービスの一環として、Wi-Fiを活用し展示ケースの側に設置したQRコードを読み取ると、そこからリンクさせたYouTubeによる展示音声ガイドの仕組みを初めて導入しました。またブログ、twitterの積極的な運用に取り組みました。 ・横浜美術館及び岩間市民プラザで展示・施設紹介を行うことにより、常とは異なる客層への周知の機会を得ることができました。
	(2)記念館広報(紙媒体)山手通信への情報提供	(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	実施	-	
	(3)記念館広報(紙媒体)イベントちらしの作成(年3回、各回10,000枚)	(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	実施(年9回)	-	
	(4)記念館広報(紙媒体)アートナビへの掲載	(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	実施	-	
	(5)新聞等掲載 市政記者発表、広報よこはま中區版への情報掲載依頼、タウンニュース中區・西區版への情報提供の実施	(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	実施	-	
	大佛次郎及び記念館紹介ビデオの放映	■昨年度に作成した紹介ビデオを、エントランスにおいて放映し、入館者増につなげる	実施	実施	-	
	ホームページを通じた情報発信及びSNSを活用したプロモーションの実施 (ホームページ、ブログ、Facebook、Twitter、ヨコハマ・アートナビ、ヨコハマ・コードモアートナビ等を活用)	■和室、会議室の利用状況・空き状況のページを円滑に運営	実施	実施	-	
		□ホームページ情報更新	月3回以上	平均4.6回 2月 未達成	B	
		□ブログ情報更新	月5回以上	月5回以上	B	
		□ツイッター更新	週1回以上	平均13.6回 4月 未達成	B	
	アプリの開発の検討	□大佛次郎記念館アプリ開発について情報収集	実施	実施	-	【課題】 特に若い世代に向けてのSNSでの積極的な情報発信や、Wi-Fiの活用について検討が必要です。 【改善が必要と考えられる点】 ・音声ガイドサービスを継続し、常設のサービスとしていただくことで、より良い利用者サービスの向上につなげることを望みます。 ・館紹介ビデオを館エントランスのほか、他施設でも上映をして活用しました。今後はホームページで見ることができるようにする等、さらなる活用が図られるよう検討することを期待します。
7 後世に継承するための記念館の活性化	大佛次郎作品の刊行協力等、大佛作品を読む環境整備 (1)既刊の販売協力	■販売協力を行い、普及に努める 生誕120年テーマ展示Ⅱの図録として活用をはかり、販売にも繋げる	実施	実施	-	
	(2)その他	■単行本未収録の作品の刊行や絶版本の復刊、所蔵資料を活用した出版への働きかけ	年1冊	年1冊	B	
		■電子本配信の検討	実施	未実施 (検討を実施)	-	
	フランス関連資料の活用 (1)企画展や常設展内展示コーナー等での展示	■テーマ展示Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで展示活用	実施	実施	-	
	(2)横浜フランス月間への参加	(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	実施	-	
	若者の来館促進 (1)スタンプラリー等参加	■キャンペーンイベント等のスタンプラリー拠点到参加	実施	実施	-	
	(2)街コン開催	□街コンジャパン主催、財団協力の「横浜アートで街コン」に参加	年1回以上	未実施	C	
	「大佛次郎記念館活性化プロジェクト」成果継承	■継承企画の実施 28年度作成したワークシート「ねこからの挑戦状」を積極的に活用し、参加者を増やす	実施	実施	-	
	子どもたちが記念館に集う取組(再掲)	「3 各種文化的事業の実施」及び「5 市民協働及び地域とのネットワーク構築」記載内容と同				
	大佛次郎生誕120年記念「大佛次郎120歳誕生日」	□入館者目標数	100人	1,793人	A	
		■無料入館デーの実施	実施	実施	-	
		■中区制90周年連携事業	実施	実施	-	
	スタッフの展示案内によるリピーターの確保(月5回以上)	□団体入館者に対する解説	年40回以上	年35回	C	【成果】 ・神奈川県歴史博物館との共催である「ミュージアム・ミッション2017」、山手西洋館連携事業である「ハロウィンウォーク」「山手ユースギャラリー」に積極的に参加しました。地域の施設との連携事業に参加することで、地域イベント感の醸成に寄与するとともに、施設連携により地域への周知を図ることができました。 【課題】 ・大佛作品の普及を目的とした電子本配本の実現可能性については継続して検討します。 ・団体入館者への解説回数が目標数値を下回りました。解説により来館者の満足度が高くなるため、次年度以降は、展示解説・建物ミニトークを団体説明として加え目標数値の達成を目指します。
	愛猫家の側面に着目した、猫を活かした企画展開(再掲)	「3各種文化的事業の実施」記載内容と同				
	収入増及び健全な財務体質の実現に向け、個別事業評価システムによる自己評価、文学懇話会(会員構成：メディア・有識者等・市)の意見、年次評価等を活用したPDCAサイクルの構築	■個別事業評価システムによる自己評価の実施(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	実施	-	
		□文学懇話会の開催	年2回	年2回	B	
		■年次評価の実施(計画書に記載なし)(自己評価、行政評価、外部評価)	(計画書に記載なし)	実施	-	

平成29年度 横浜市大佛次郎記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し－10%を下回る実績→「C」

Ⅱ施設運営目標	評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
	指定管理者提案(要旨)		達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 観覧及び市民・市民団体の教養活動のための施設の提供	1	観覧施設の提供	■大きな事故なく、開館	実施	実施	・事故0。	【成果】 ・安全面に常に気を配った施設運営により、大きな事故やトラブルなく施設運営を行いました。 ・リピーターの利用回数増加により、会議室の利用率が目標を上回りました。 【課題】 ・和室の利用率が目標を下回りました。和室の利用促進のため、今後は新しく作成した利用案内を活用し施設利用周知を図ります。 ・29年度中にリニューアルに着手した施設パンフレット2種類やメールニュース配信を活用し、利用促進を行います。	【評価できる点】 ・リピーターの定着を図ったほか、撮影利用等にも対応し、会議室の利用率が目標を10%以上上回ったことを評価します。 ・年間入館者数が2万人を超え、目標を6,000人以上上回ったことを高く評価します。昨年度と比較しても1,900人以上上回っており、オープンデー等の取組が入館者増につながった一つの成果の表れだと考えます。 【改善が必要と考えられる点】 ・和室の利用率が目標を下回りました。今後は利用の増加に向けた積極的な営業を実施する等、利用率の向上に向けた取組が実行されることを期待します。
	2	和室及び会議室の積極的な貸出、レファレンス対応(広報協力、感想・ご意見の収集、ホームページでの空き状況情報提供サービス等によるリピート利用促進等)	□目標利用率 和室	25%(日)	24.3%	・和室24.3%、会議室40.7%。28年度と異なり、和室をねこ写真展期間に一般利用可能としたため、利用率が未達。 ・レファレンス件数:年間62件(再掲)。海外からの来館者を含め、学界など幅広い層からの質問に答え、情報の発信を実施。		
			□目標利用率 会議室	29%(日)	40.7%			
			□レファレンスサービス 対応数	40件	62件			
2 利用者ニーズの把握及び利用者サービスの向上、アイデアノウハウの一層の活用	3	入館者数の増	□年間入館者数	18,400人	24,492人	・年間入館者数:24,492人(昨年度比1,985名増加) ・一日平均の入館者数:82名	【成果】 ・アンケートやお客様の声に速やかに対応し、改善を行いました。特に入館料支払方法にsuica導入や、コインロッカーの料金変更など、お客様の利便性向上に直接つながる改善ができました。 ・30年度からの配布を目指し、英語併記の施設案内および貸出のための施設利用案内パンフレットについてリニューアルを進めました。リニューアルにあたり、堅苦しくなく親しみやすさを感じるデザインを採用しました。チケットデザインも連動して変更し、しおりとして持ち帰りたくなるようなものを狙いました。 【課題】 ・メールマガジン(メールニュース)については、現在行っている事業案内に加えて、未着手である施設利用に関しての案内を掲載する方針を確立させます。(再掲) ・ショップのオリジナル商品開発については引き続き検討中です。売れ筋商品や世間のヒット商品の動向を探りながら、お客様のニーズをつかむよう継続して取り組みます。	【評価できる点】 ・入館料のsuica対応を継続したほか、コインロッカーの更新や和室入口への踏み台設置等、利用者の意見を取り入れ、より使いやすい施設を目指した利用者サービスの向上が図られたことを評価します。 ・開館40周年となる平成30年度からの配布を目指し、施設案内及び施設利用パンフレットの更新を検討しました。施設パンフレットの見直しを図ったことで、施設の魅力を伝えるツールとして新たに活用できるようになったことを評価します。 【改善が必要と考えられる点】 ・メールマガジンでは事業中心の配信を行いました。今後は施設の利用案内についても配信し、施設の貸室利用が促進されるように努めることを期待します。 ・改善事例に関する情報発信が今年度中には行われなかったものもありました。今後は利用者サービスの向上に関する迅速な周知という面でも、改善事例について適宜発信することを期待します。
	4	施設貸出の御案内、撮影等の貸出利用案内強化による利用促進(貸出施設の案内、ホームページへの撮影等の利用案内の掲載等)	■メールマガジンでの案内実施開始	実施	未実施	・メルマガ募集キャンペーンを実施し、年度末の会員数は70名。ホームページからメルマガ登録ができるシステムを構築。 ・メルマガは現在は事業の案内が中心のため、施設利用についても案内していく予定です。		
	5	アンケート等による利用者ニーズの把握(和室無料公開の継続、会議室の学校関係の利用の促進、利用者へのアンケート及びインタビュー調査の実施等)	■来場者に対するアンケートを実施。月毎の集計を行い、館内スタッフに迅速なフィードバックを実施 ■改善事例をホームページ、SNS等で情報発信	実施	実施	・前月の来場者アンケートを月始に集計し、職員間で情報共有。横浜市とのモニタリング時にも活用。問題が発生した場合は速やかに会議の場で協議。 ・和室利用者より要望のあった和室のステップ(踏み台)について3月に設置完了。30年度4月に情報を発信予定。		
	6	要望・苦情への対応(要望・苦情の館内・財団・市との適切な共有と対応)	(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	適宜実施	・コインロッカー(リターン式)の料金を500円から100円に変更し、お客様の利便性が向上した。		
	7	案内・説明表示の外国語表記対応	■案内パンフレットの英語版作成(外国からの入館者に積極的に配布) ■1階ロビー展示部分の英語併記	実施	実施	・従来の外国語リーフレットに加え、30年度から配布予定の新規リーフレットには、地図に英語併記する準備を進めた。 ・1階ロビー展示の英語併記:5月に実施		
	8	展示解説や団体向け解説を実施(再掲)	「7 後世に継承するための記念館の活性化」と同			・団体入館者に対する解説:年35回(再掲)		
	9	Wi-Fiアクセスポイントの適切な運用	(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	実施	・アクセスポイントを2階サロンに設置。 ・Wi-Fiを利用しての展示音声ガイドを展示Ⅲで試行。		
	10	電子マネー決済の適切な運用	(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	実施	・suicaによる入館料支払が稼働。		
	11	施設の魅力を向上	■調度品類を修繕・更新	随時実施	随時実施	・コインロッカーの変更、和室踏み台の備え置き等(再掲)		
	12	オリジナル商品の開発及び図書の販売(話題性のある商品の開発・販売、一般書店では手に入りにくい図書類の販売、文庫本へのオリジナルカバー付加、通販対応の継続とホームページでのPRの実施)	□新規グッズ開発 開発数 ■「大佛次郎と猫」の販売メリットを享受するための積極的な宣伝の実施 ■一般の書店で手に入りにくい図書類を販売	1アイテム以上	1アイテム	・オリジナル商品として「ねこ付箋」を開発し販売。 ・ねこ柄のハンカチ類を新たに増やした。緑化フェアに合わせて植物柄のハンカチを増やしショップの増収につなげた。 ・テーマ展示Ⅱの期間中、展示会場のほか閲覧室やサロンに書籍「大佛次郎と猫」を備え置きし、手に取ってご覧いただいた上で購入を促進する仕組み作りをした。 ・鞍馬天狗購入キャンペーンの実施、書籍の紹介カタログの常設などを行い、大佛次郎作品の購買促進を行った。		
	13	エントランスでの利用促進及びサービス向上の取組大佛次郎の愛用品展示、大佛次郎の紹介映像の放映	(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	実施	・エントランスでの映像放映、書籍の展示を実施		

平成29年度 横浜市大佛次郎記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し－10%を下回る実績→「C」

Ⅱ 施設運営目標	評価項目	H29年度計画		実施状況			評価	
	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績		説明	自己評価	行政評価
3 組織的な施設運営	適切な運営組織体制と人材の配置(館長1、事務職員2、研究員2、研究室補助員1、特任研究員1、専門員1、カルチャースタッフ4)	□館内会議の実施 研究室会議、合同会議、企画会議	研究室会議:月1回 合同会議:月1回 企画会議:月1回	実施	-	・館内会議を予定通り実施。各事業の方向の決定や、情報共有・中長期的な計画の立案、施設運営における問題点の洗い出しと解決の場とした。	【成果】 ・目標どおり実施しました。館内会議の実施により、職員間での情報共有が図られたほか、施設運営における課題や方向性を共有する場となりました。	【評価できる点】 ・適切な施設運営に努めたことを評価します。
	文学館の専門性、公共の施設として適切な人員を配置。 職員の能力向上のため、研修を実施。(OJT、MBO、財団・市実施の研修、外部研修への参加)	■業務として必要な専門知識向上や資格取得のため、費用対効果も見極めながら、積極的な受講・取得を推進	実施	実施	-	・業務を行う上で有用な研修を優先的に受講。 ・全国文学協議会会議は、業務と日程が重なったため、29年度は参加を見合わせた。	【課題】 ・全国文学館協議会会議については、文学館が抱える課題や先進的な取組を共有する貴重な機会ですが、29年度は展示業務と重なったことにより参加できませんでした。今後は職員の専門性や資質向上に必要な研修については受講できるよう体制を整えます。	【改善が必要と考えられる点】 ・引き続き研修等の機会を通じ、職員のスキルアップに努めてください。
		■展覧会の企画立案、資料等の研究・整理等の能力を有する職員の配置(研究室)	配置	配置	-			
		■全国文学館協議会会議に参加し、文学館同士の情報共有・連携強化	実施	未実施	-			
4 個人情報保護等、本市の重要施策を踏まえた取組	個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注等の取組の実施 (1)個人情報保護 個人情報取扱マニュアルの作成と年1回以上の改定・見直し及び職場内研修の実施、個人情報の適切な取り扱いによる事故防止	■個人情報漏洩などに関する事故	0件	0件	-	・複数のコンプライアンス研修により危機意識をもって業務を遂行。 ・個人情報漏洩などに関する事故:0件 ・紙情報は施錠できるキャビネットでの管理を徹底し、データ情報はパスワードの設定を必須とした。また、メールは誤送信防止ソフトを全員のPCにインストールして管理。 ・28年度報告書をホームページに掲載 ・市内中小企業中心に発注金額ベースで9割を達成。物品・工事等においては市内中小への発注を意識して行った。	【成果】 ・コンプライアンスや市内中小企業への発注目標についての各取組は、目標どおり達成できました。 【課題】 ・不要な電気を消す、事務室エアコンの利用を控える等、継続して省エネルギー等に関する取組を継続します。	【評価できる点】 ・各業務について目標通り適切に実行したこと評価します。 【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。
	(2)情報公開	■業務計画書、報告書のホームページでの公開:実施、PDFのダウンロード	実施	実施	-			
	(3)人権尊重 横浜市主催の人権講演会への職員の参加、職場内研修の実施、受付職員を対象とした接遇研修の毎年度の実施	(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	実施	-			
	(4)省エネルギー・節電 節電への取組、、クールビズ及びウォームビズの実施と来館者への取組周知	(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	実施	-			
	(5)ごみ 「ヨコハマ3R夢プラン」に基づく取組の実施、ごみの軽減化の取組、印刷・コピーの適切な節制、文書の適切な処分	(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	実施	-			
	(6)市内中小企業優先発注 特別な専門性が必要な契約等を除く発注の市内中小企業への優先	□市内中小企業への発注	9割以上 (件数、金額)	金額ベースで9割以上を達成	B			

平成29年度 横浜市大佛次郎記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し－10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価			
Ⅲ維持管理目標		指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 施設及び設備の維持保全及び管理	1	施設の安全・安心・快適環境維持と長寿命化対応の実施	■施設運営に支障がでないよう管理	実施	実施	・3月に高圧ケーブル交換工事を実施。 ・6月に植栽の選定・害虫消毒を実施。	【成果】 ・管理を遺漏なく行いました。 ・施設及び設備の課題点等について、横浜市及び指定管理者事務局と適切な情報共有を図りました。 【課題】 ・経年劣化については、小さな不具合も見逃さず、予防的措置を講じるとともに、横浜市及び指定管理者事務局とも課題共有していくべきと考えます。	【評価できる点】 ・施設及び設備の管理について、適切に業務を遂行したことを評価します。 【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。	
			■館建設から38年経過し、建物、設備に劣化が進んでいるので、必要な修繕を実施するように調整	実施	実施				-
			■必要に応じ市と協議	実施	実施				-
	2	保守点検、備品管理、環境維持の実施 (1)備品の物品管理簿での管理、年度末の棚卸の実施等の実施による適切な管理 (2)消耗品の適切な管理・購入による経費節減と発注事務の軽減 (3)大佛次郎遺品類及び関係資料の適切な管理(日常的な確認・点検の実施)	(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	実施	・設備の不調については、常に財団事務局に報告・相談を実施。 ・事故発生に備え、迅速な連絡体制を構築。			
			(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	実施				-
			(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	実施				-
			□不具合早期発見のための自主点検の実施 実施回数	月1回	月1回				B
	3	適切な環境維持管理業務の実施 (1)業務の基準の遵守及び見回りによる清掃の即時対応の実施 (2)公園の管理区域内の環境維持、公園管理者との連絡調整	■自主点検した内容を財団事務局と情報を共有	実施	実施	-			
			(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	実施	-			
	2 小破修繕の着実な実行	4	小破修繕の取組 (日常点検で把握した故障等への都度対応による修繕費等の支出抑制、財団のサポートによる効果的・効率的な修繕の実施)	■随時実施	随時実施	実施			・小破修繕:随時実施、トイレ部品交換、雨漏り修繕(2階ステンドグラス付近)、照明工事、高圧ケーブル交換など必要な場合は横浜市と連携して修繕。 ・自主点検:月1回実施 ・ウッドデッキ活用例や、附帯設備の品目増についてホームページやブログ、SNSを通じ情報発信。
□不具合早期発見のため自主点検を実施 月1回(再掲)				月1回	月1回	B			
■修繕等の実施に際しては横浜市と情報共有するとともに、実績をホームページ、SNS等を通じ積極的に情報発信				実施	実施	-			
3 事故予防及び緊急時の対応		5	事故防止体制・防犯、緊急時の対応・感染症対策等衛生管理の実施 (1)全体管理について (2)危機管理マニュアルの整備と必要に応じた改訂 (3)職員及びカルチャースタッフによる館内の見回り・点検の実施 (4)インフルエンザ流行時のポスター掲示、鳥インフルエンザへの留意、ノロウイルス対応の準備と2次感染防止策の徹底 (5)緊急時の連絡体制 財団事務職員1名による兼務と必要に応じた派遣、関係各所との緊急連絡網の作成と緊急時の速やかな報告・相談の実施 (6)AED設置及び研修 消耗品等の定期的な更新・交換、財団主催の操作研修への全員参加	■施設運営に支障がでないよう管理	実施	実施	・適切な管理を実施。郵便ポストを休館日に南京錠で施錠。 ・館内巡回 1日2回実施		
				□館内巡回 実施回数	館内巡回 1日2回	館内巡回 1日2回		B	
	(計画書に記載なし)			(計画書に記載なし)	実施	-			
	(計画書に記載なし)			(計画書に記載なし)	実施	-			
	(計画書に記載なし)			(計画書に記載なし)	実施	-			
4 防災に対する取組	6	日常の取組、危機管理マニュアルの整備、防火・防災の取組、災害備蓄等の実施 (1)危機管理マニュアルの適宜見直し及び改訂 (2)避難訓練 自衛消防組織の結成、防災計画の作成、危機管理マニュアルに基づく年2回の避難訓練の実施 (3)緊急事態に備えた飲料水、非常食、毛布等の備蓄	(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	実施	・11月は中消防署北方消防出張所長の指導のもと防災訓練を実施し、2月は職員のための自主訓練を実施。 ・事前の説明をせず、マニュアルに頼らない訓練を実施。	【成果】 ・適切に実施しました。 ・職員に訓練内容の事前の周知や役割分担を行わず、突発事項に対応する訓練「マニュアルなき防災訓練」により、職員・スタッフの危機に対応する意識を高めました。 【課題】 ・特筆すべき事項なし。	【評価できる点】 ・防災訓練の実施等、防災に対する取組が目標通りに適切に実行されたことを評価します。 【改善が必要と考えられる点】 ・今後も危機管理マニュアル等の継続した更新を行うと共に、多様な状況を想定した実際の発災時に近い訓練を実施することを期待します。	
			□防災訓練 実施回数	年2回	年2回				B
			(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	実施				-

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
IV収支	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 適切な収支構造及び収支バランス	1 適切な収支構造及び収支バランス	■優先順位を見極め、緊急度の高いもの、必要性の高いものから執行を検討し、提案した収支表に準じ、適切な収支管理を行う	実施	実施	チェック ・適切に予算管理を行い執行。	【成果】 ・適切に実施しました。	【評価できる点】 ・収入が予算と比較し250万円以上上回ったことを評価します。ショップ売上収入のほか、自主事業収入や施設利用料金収入も目標を上回りました。
2 指定管理料にのみ依存しない収入構造	指定管理料のみに依存しない収入確保の取組 (1)利用料金収入の確保 有料入館者増に向けた取組の実施、企画展におけるマスコット作成と配布	■有料入館者数増にするため、観光客・団体客の増	実施	一部実施	・テーマ展示Ⅱのねこの展示及びねこ写真展により、観光客の来場が大幅に増え、入場料収入の増つなだった。 ・ショップ年間売上:2,927,357円 目標数値の2倍に近い売上。 ・協賛金2件:40,000円 ・寄付金1件:10,000円 ・おさがり選書 広告収入4件:80,000円	【成果】 ・「ねこ」を取り上げた企画展を実施する等、様々な事業の展開を図ったこともあり、入館者増による入場料収入が増加したと共に、ショップ売上の増となりました。	【評価できる点】 ・ショップ売上金額が目標を120万円以上上回ったことを高く評価します。ショップ売上金額は昨年度と比較しても80万円以上増加しており、売上を伸ばしたといえます。
	(2)おさがり選書への広告掲載、企画展の協賛依頼、助成金への積極的な応募の実施	(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	実施			
	(3)ショップ売上目標の設定	□ショップ売上目標 目標金額	1,550,000円	2,924,357円	A		
3 経費削減及び効率的運営努力	経費節減等効果的運営の努力 (1)発注、事務処理上の留意点 契約にかかる経費削減、支払い時の事務処理時間及び振込手数料の削減、計画的な発送処理による作業時間及び郵送経費の削減、廃棄物の削減	(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	実施	・入場者数の増加に伴い、特に水道使用量が大幅に増。	【成果】 ・特筆すべき事項なし	【評価できる点】 ・経費削減及び効率的運営のための取組を実施したことを評価します。
	(2)施設、設備管理上の留意点 早期対応による設備の長寿命化の実現と修繕費の節制 省エネルギーのための取組と光熱費の節減(管理費の多くを占めている光熱水費を節約することで、コストの削減につなげる)	(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	実施			
	(3)コスト意識 職員の超過勤務削減、業務分担の平準化、業務の外注化等の促進、効率的で適切な勤務体制の実施	(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	実施			

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
その他	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
総括	特記(提案事項要旨)	達成指標		説明		自己評価	行政評価
						29年度は大佛次郎生誕120周年という記念の年にあたり、テーマ展示や講演会の実施、他施設での事業展開や「大佛次郎記念館のオープンデー」の開催等、多角的に事業を実施し記念年を盛り上げました。また、中区区政90周年との連携など、施設周知につながる契機も多くあり、それらの取組が来館者数の大幅な増という結果をもたらしました。あわせて文学館としての使命である収蔵作品の調査・研究・普及についても目標どおりの取組を行いました。 次代の趨勢によりITの活用についても展示や広報に取り入れるよう取り組みました。出版をめぐる情勢は厳しいものがありますが、本の良さや読書の楽しさを伝える努力は怠らず、その結果がミニビブリオパトルの開催や中央図書館でのライブラリースクールの実施に結実しました。 施設利用率の面では、和室が目標数値に届きませんでしたが、今後は利用促進を図っていきます。	指定管理開始2年度目として、初年度のふり返りをふまえた改善を織り込んだ業務の実施がされました。テーマ展を計画に沿って着実に開催したほか、昨年度から開始した事業である「大佛次郎×ねこ写真展2018」も継続して開催しました。また、大佛次郎生誕120周年を記念した事業についても、周辺地域との連携等も図りながら積極的に実施しました。こうした取組の成果として、過去10年間でも最高の24,492人という来館者数となったことを高く評価します。積極的な事業の実施により、大佛次郎生誕120周年という記念の年にふさわしいアピールができました。今後も来館者増を目指して、より一層取り組むことを期待します。 施設の管理運営が目標に即して適切に行われたことを評価します。今後も施設・設備等に配慮するとともに、館全体で情報共有を図り、継続して適切な施設の管理運営を行ってください。 目標を未達成となった業務に関しては、引き続き検討し、実情に即した現実的な具体案を提案する等、実現を図ってください。